
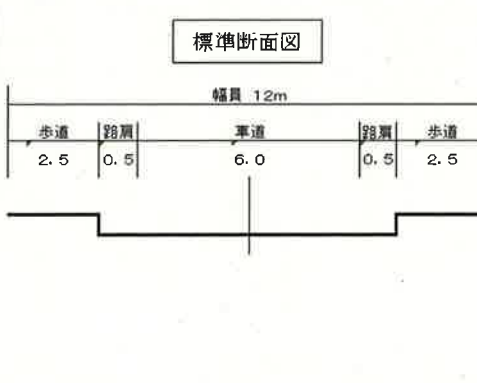



再評価結果（令和元年度事業継続箇所）

担当課：長崎市 土木建設課

担当課長名：川原 直樹

事業名	道の尾駅前線			事業区分	市町村道	事業主体	長崎市	
起終点	<small>ながさきけんながさきしいわやまち</small> 自：長崎県長崎市岩屋町 <small>ながさきけんながさきしはやま1ちようめ</small> 至：長崎県長崎市葉山1丁目			事業区分		事業主体	延長 0.20km	
事業概要	都市計画道路道の尾駅前線は、道路沿線地区の生活道路として整備を図るとともに、駅と幹線道路を接続することにより、駅施設の交通結節点としての機能強化を図る事業。							
H22年度事業化	都市計画決定 あり		H22年度用地着手		H22年度工事着手			
全体事業費	12.0億		事業進捗率	40.0%		供用済延長	0.02km	
計画交通量	3,400台/日（H42）							
費用対効果分析結果	B/C	1.12	総費用	(残事業)/(事業全体) 5.72/12.15億円		総便益	(残事業)/(事業全体) 13.57/13.57億円	
	(事業全体)		(残事業)	事業費：5.70/12.14億円 維持管理費：0.02/0.02億円		走行時間短縮便益：9.93/9.93億円 走行費用減少便益：3.26/3.26億円 交通事故減少便益：0.38/0.38億円		基準年 令和元年
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施							
	【全体事業】交通量変動：B/C=1.29~1.06（交通量 ±10%）			【残事業】B/C=2.74~2.24（交通量 ±10%）				
	事業費変動：B/C=1.04~1.21（事業費 ±10%）			B/C=2.17~2.62（事業費 ±10%）				
	事業期間変動：B/C=1.11~1.13（事業期間±1年）			B/C=2.35~2.39（事業期間±1年）				
事業の効果等	・周辺道路とのネットワークの形成（交通円滑化）							
関係する地方公共団体等の意見	長崎市都市計画マスタープランに位置付けられている。							
事業再評価監視委員会の意見	-							
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等	-							
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成30年度末までの事業進捗率は40.0%で、用地進捗は80%と進捗しており、今年度以降協議を継続して行い、令和7年度の事業完成を目指す。							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き事業の進捗を図り、令和7年度の事業完成を目指す。							
施設の構造や工法の変更等	-							
対応方針	事業継続							
対応方針決定の理由	事業の必要性を考慮した場合、事業継続が妥当と判断される。							
事業概要図	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>位置図</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>標準断面図</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>事業概要図</p> </div> </div>							

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 総費用と総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

令和元年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

道維-1 街路事業
道の尾駅前線

事業主体 長崎市

再評価
の理由 事業採択後10年経過



1

1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H22新規)	—	H22	R2	12.0	1.18	【工事概要】 延長0.2km 幅員6.0(12.0)m
第1回審議 (R1年度)	事業採択後 10年経過	H22	R7	12.0	1.12	【当初評価からの変更概要】 用地取得手続き難航による工期延長

2

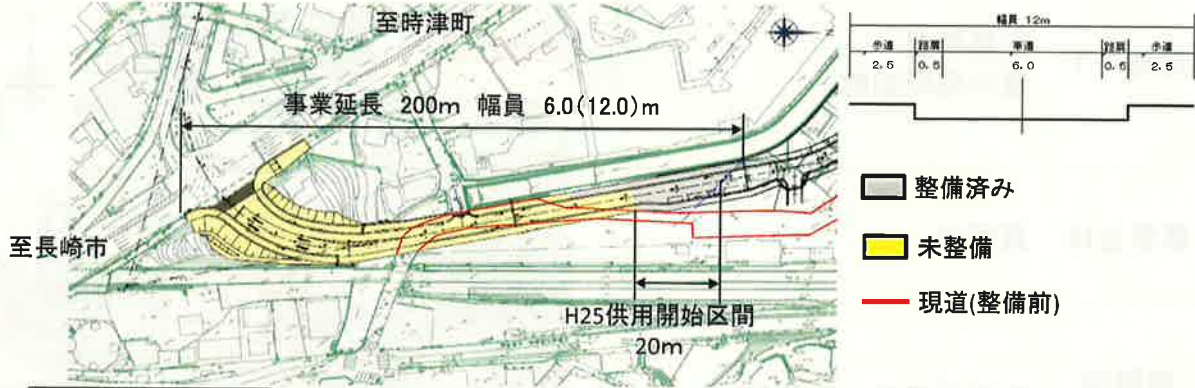
2. 目的・事業概要・これまでの経緯

目的

道路沿線地区の生活道路としての整備を図るとともに、駅と幹線道路を接続することにより、駅施設の交通結節点としての機能強化を図る。また、道ノ尾駅へのアクセス向上、及び良好な都市環境の確保を図るため整備するものである。

事業概要

・事業延長:200m ・幅員6.0(12.0)m ・計画交通量:3,400台/日 ・総事業費:12.0億円



これまでの経緯

平成22年度:事業認可
平成22年度:事業着手
平成30年度末:約20m供用開始

事業進捗率 40%(事業費ベース)
用地進捗率 80%(面積ベース)

3

3. 事業の効果・必要性

本路線は都市計画道路や土地区画整理事業の進捗に伴い、道ノ尾駅周辺の交通量が増加することが想定され、周辺道路とのネットワークを形成するための整備を行い、交通円滑化と良好な都市機能を確認するものである。



① 駅前道路が狭小

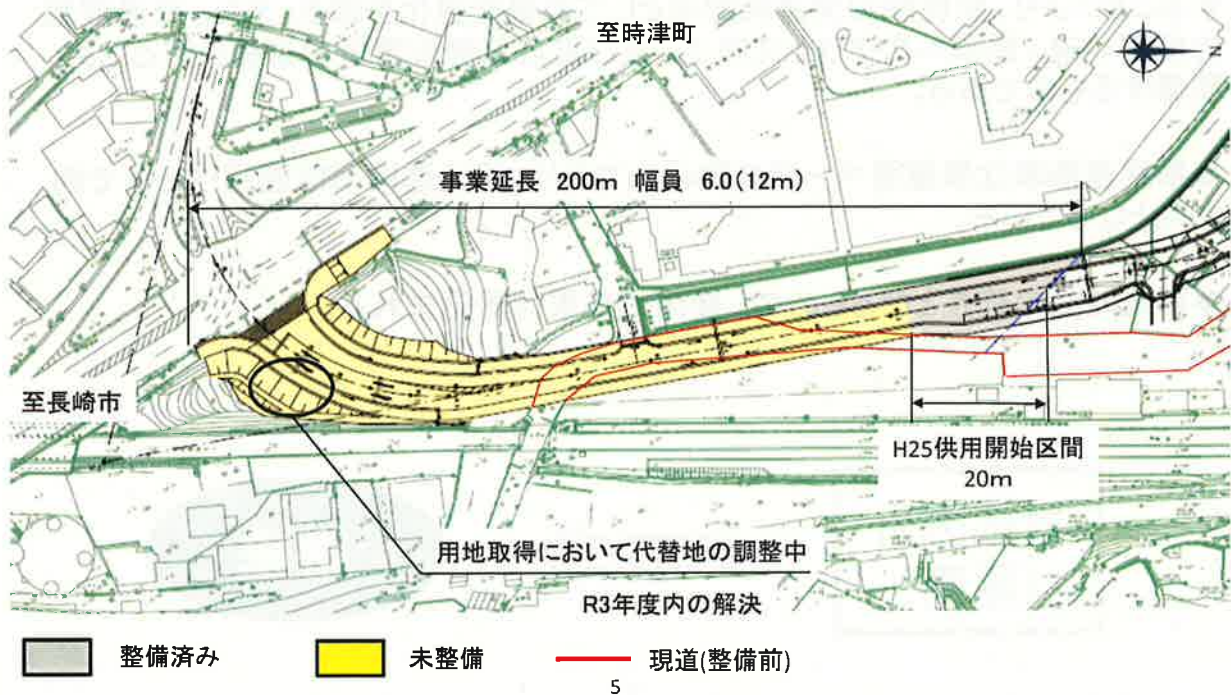


② 道ノ尾駅周辺道路へのネットワークの形成

4

4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

【完了工期】 R2(当初)→R7(変更)
R3年度用地取得、R7年度工事完了予定



5. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (平成22年度)	今回評価 (令和1年度)
残事業	—	2.37=13.57億円/5.72億円
全事業	1.18=10.98億円/9.28億円	1.12=13.57億円/12.15億円

〔費用〕

- ・道路整備に要する事業費(工事費、用地費)、道路維持管理に要する費用

〔便益〕

- ・走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益

〔マイナス要因〕

- ・事業期間の延長

〔その他の要因〕

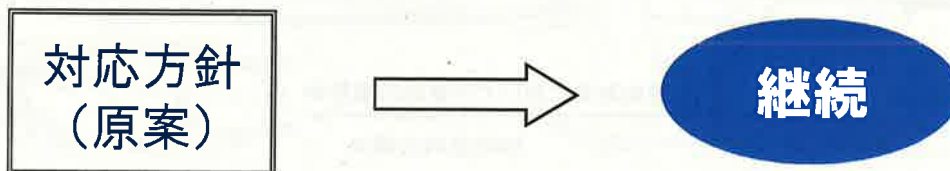
- ・貨物車原単位(価格)の増加(プラス要因)

6. 対応方針(原案)

◆道路沿線地区の生活道路としての整備を図るとともに、駅と幹線道路を接続することにより、駅施設の交通結節点としての機能強化を図る。また、交通混雑の解消や道ノ尾駅へのアクセス向上、及び良好な都市環境の確保を図るため整備するものである。

◆事業進捗率は事業費ベースで約40%であり、用地進捗率は面積ベースで約80%となっている。


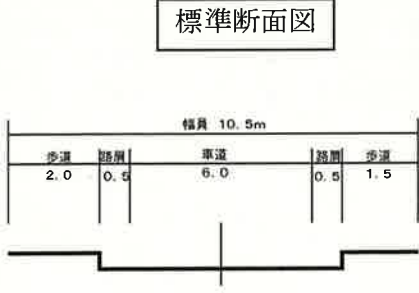

◆事業期間の延長となるものの、費用対効果は見込まれる。



再評価結果（令和元年度事業継続箇所）

担当課：長崎市 土木建設課

担当課長名：川原 直樹

事業名	2級市道川上町出雲線（出雲工区）		事業区分	市町村道	事業主体	長崎市
起終点	<small>ながさきけんながさきしいづもいっしょうめ</small> 自：長崎県長崎市出雲一丁目 <small>ながさきけんながさきしいづもさんちようめ</small> 至：長崎県長崎市出雲三丁目			延長	0.58 km	
事業概要	2級市道川上町出雲線（出雲工区）は、利便、防災上の問題を抱えており、地区の生活道路・通学路・緊急医療及び災害時の輸送路として重要な路線であるため改良を行うもの。					
H17年度事業化	都市計画決定 なし		H17年度用地着手	H17年度工事着手		
全体事業費	9.0億	事業進捗率	86.7%	供用済延長	0.30 km	
計画交通量	4,818台/日（H42）					
費用対効果分析結果	B/C		総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)
	(事業全体)	1.12	1.15/12.16億円		6.58/13.62億円	
	(残事業)	5.72	事業費：1.13/12.11億円 維持管理費：0.02/0.05億円		走行時間短縮便益：6.34/13.14億円 走行費用減少便益：0.23/0.48億円 交通事故減少便益：0/0億円	
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
	【全体事業】交通量変動：B/C=1.23~1.01（交通量 ±10%）			【残事業】B/C=6.29~5.15（交通量 ±10%）		
	事業費変動：B/C=1.05~1.20（事業費 ±10%）			B/C=5.25~6.28（事業費 ±10%）		
	事業期間変動：B/C=1.11~1.14（事業期間 ±1年）			B/C=5.68~5.76（事業期間 ±1年）		
事業の効果等	・走行車両の安全確保（車道拡幅による交通安全性の向上） ・歩行者の安全確保（歩道整備による交通安全性の向上）					
関係する地方公共団体等の意見	長崎市第四次総合計画で安全、安心で快適な生活道路の整備が挙げられている。					
事業再評価監視委員会の意見	—					
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等	—					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成30年度末までの事業進捗率は86.7%で、用地進捗は86%と進捗しており、今年度も用地取得を継続して行い、令和5年度の事業完成を目指す。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き事業の進捗を図り、令和5年度の事業完成を目指す。					
施設の構造や工法の変更等	—					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	事業の必要性を考慮した場合、事業継続が妥当と判断される。					
事業概要図	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>位置図</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>標準断面図</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>事業概要図</p> </div> </div>					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用と総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

令和元年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

道維一2 道路改築事業
2級市道川上町出雲線
(出雲工区)

事業主体 長崎市

再評価
の理由 再評価後5年経過



1

1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H17新規)	—	H17	H21	9.0	1.3	延長576m 幅員6.0(10.5)m
第1回審議 (H26年度)	事業採択後 10年経過	H17	H29	9.0	1.16	延長576m 幅員6.0(10.5)m
第2回審議 (R1年度)	再評価後 5年経過	H17	R5	9.0	1.12	延長576m 幅員6.0(10.5)m

2

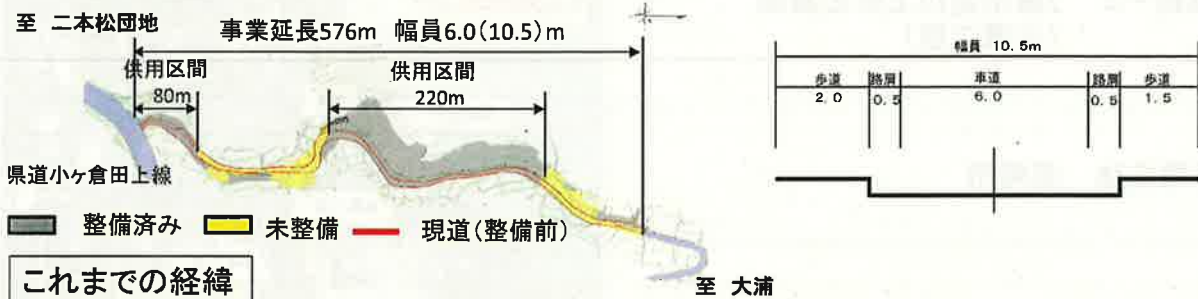
2. 目的・事業概要・これまでの経緯

目的

本地区は、利便、防災上の問題を抱えており、地区の生活道路・通学路・緊急医療及び災害時の輸送路として重要な路線であるため早期整備が望まれており、車道拡幅及び歩道整備を行うものである。

事業概要

- ・計画延長:576m
- ・幅員:6.0(10.5)m
- ・計画交通量:4,818台/日
- ・総事業費:9.0億円



これまでの経緯

平成17年度:事業採択
 平成17年度:事業着手
 平成30年度末:約300m供用開始

事業進捗率 約87%(事業費ベース)
 用地進捗率 約96%(面積ベース)

3

3. 事業の効果・必要性

本路線は、現道の拡幅工事で車道を1車線から2車線に整備することにより、走行車両の安全確保及び、歩道も併せて整備を行うことにより、歩行者の安全確保が効果として挙げられる。

①通学路となっており、歩道が整備されていないため、危険。



②車道が狭く、離合が困難なため、危険。

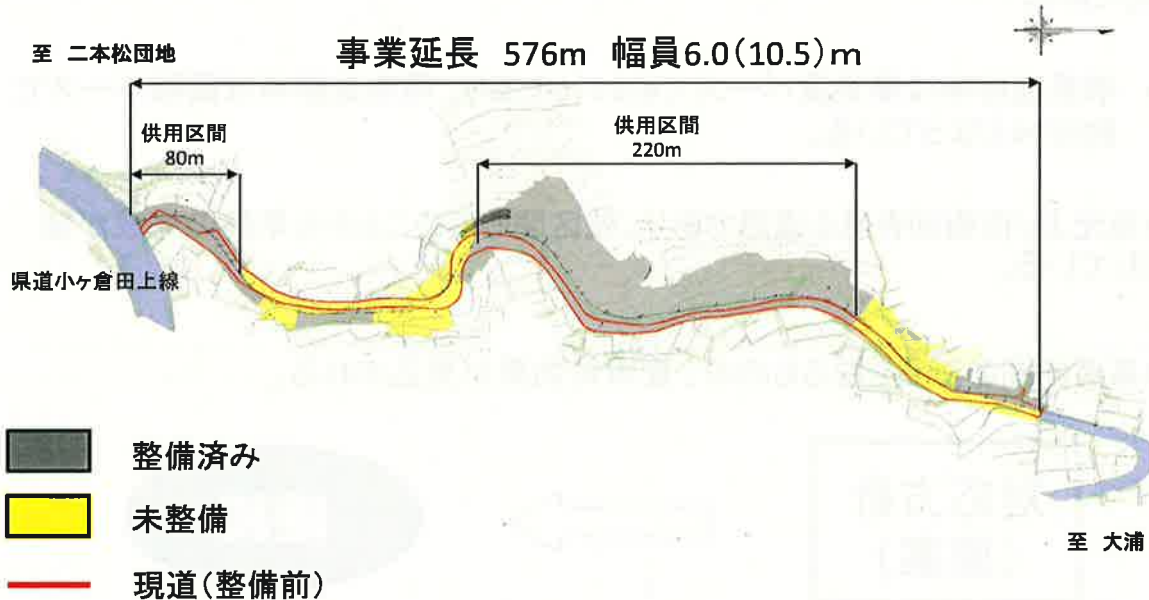


4

4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

【完了工期】 H29(当初)→R5(変更)

R3年度用地取得完了予定、R5年度工事完了予定



5

5. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (平成26年度)	今回評価 (令和元年度)
残事業	3.67 = 7.30億円 / 1.99億円	5.72 = 6.58億円 / 1.15億円
全事業	1.16 = 11.76億円 / 10.14億円	1.12 = 13.62億円 / 12.16億円

〔費用〕

- ・道路整備に要する事業費(工事費、用地費)、道路維持管理に要する費用

〔便益〕

- ・走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益

〔マイナス要因〕

- ・事業期間の延長

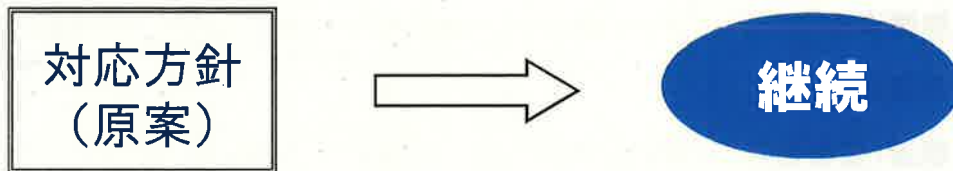
〔その他の要因〕

- ・貨物車原単位(価格)の増加(プラス側要因)

6

6. 対応方針(原案)

- ◆本地区は、利便、防災上の問題を抱えており、地区の生活道路・通学路・緊急医療及び災害時の輸送路として重要な路線であるため、車道拡幅及び歩道整備を行うものである。
- ◆ 事業進捗率は事業費ベースで約87%であり、用地進捗率は面積ベースで約95%となっている。
- ◆地元より市街地を通る道路であり、残区間も短いことから早期の完成が望まれている。
- ◆事業期間の延長となるものの、費用対効果が見込まれる。



再評価結果（令和元年度事業継続箇所）

担当課：対馬市北部建設事務所
担当課長名：仁田原 政彦

事業名	1級市道仁田志多留線		事業区分	市町村道	事業主体	対馬市	
起終点	自：長崎県対馬市上県町桧滝 至：長崎県対馬市上県町志多留				延長	2.55 km	
事業概要	1級市道仁田志多留線は、一般国道382号線を補完する幹線道路である。本線は、桧滝地区から志多留地区までの点在する集落を結ぶ道路である。また、周辺には漁協、郵便局などがあり、生活道路及び産業基盤道路として重要な役割を果たしている。このため交通安全の確保、日常生活や緊急時の連絡路確保等の観点から緊急に本路線を整備し、令和8年度からの供用を図る。						
H17年度事業化	都市計画決定 なし		H17年度用地着手	H17年度工事着手			
全体事業費	15.7億		事業進捗率	65.0%		供用済延長	1.33 km
計画交通量	906台/日（H42）						
費用対効果分析結果	B/C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年	
	(事業全体)	0.74	5.01/18.99億円	5.90/14.07億円	令和元年		
	(残事業)	1.18	事業費：4.93/18.64億円 維持管理費：0.08/0.35億円	走行時間短縮便益：5.74/13.55億円 走行費用減少便益：0.16/0.49億円 交通事故減少便益：0.00/0.02億円			
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施						
	【全体事業】交通量変動：B/C=0.82~0.67（交通量 ±10%）			【残事業】B/C=1.28~1.07（交通量 ±10%）			
	事業費変動：B/C=0.69~0.80（事業費 ±10%）			B/C=1.07~1.31（事業費 ±10%）			
	事業期間変動：B/C=0.71~0.77（事業期間±1年）			B/C=1.14~1.22（事業期間±1年）			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> ・国土・地域ネットワークの構築（対馬島中心部へのアクセス向上が見込まれる） ・安全な生活環境の確保及び緊急時の輸送時間の短縮 						
関係する地方公共団体等の意見	市道仁田志多留線は、産業基盤道路や災害時の緊急輸送道路として重要な路線であるため、地元地区より早期完成の要望を受けている。						
事業再評価監視委員会の意見	-						
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等	-						
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成30年度末までの事業進捗率は65.0%で、用地進捗は74%と進捗しており、伊奈志多留工区が完成している。残事業の越高工区・犬ヶ浦工区は未着手の状況にある。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	平成16年3月に旧6町が合併し対馬市となり整備路線数も急増し、効果的な投資が出来なかった。現状においては、用地交渉等に期間を要したため、期間を延長し事業に取り組みたい。						
施設の構造や工法の変更等	なし						
対応方針	継続						
対応方針決定の理由	用地問題の解決に時間が必要になることから、事業期間の延長を行う。						
事業概要図	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>位置図</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>標準断面図</p>  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用と総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

令和元年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

道維-3 道路改築事業
1級市道仁田志多留線

事業主体 対馬市

再評価の理由 再評価後5年経過



1

1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B/C	概要
		着工	完了			
当初 (H17新規)	—	H17	H26	9.8	2.47	延長2.55km 幅員5.5 (7.0) m
第1回審議 (H26年度)	事業採択後 10年経過	H17	H31	15.7	0.77	延長2.55km 幅員5.5 (7.0) m 【当初計画からの変更概要】 橋梁及び法面の岩質見直しによる事業費増額 事業費増加に伴う工期延長
第2回審議 (R1年度)	再評価後 5年経過	H17	R7	15.7	0.74	延長2.55km 幅員5.5 (7.0) m 【前回評価からの変更概要】 用地取得手続き難航による工期延長

2

2. 目的・事業概要・これまでの経緯

事業の目的

・道路交通の円滑化及び安全性向上を図ることで、地域住民の生活利便性の向上、救急医療体制強化の支援、及び水産業の振興に寄与する。

事業概要

事業延長 L=2.55km
幅員 W=5.5(7.0)m
全体事業費 15.7億円
計画交通量 909台/日

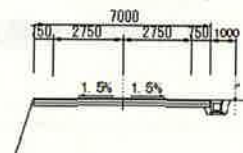
これまでの経緯

平成17年度:事業化
平成17年度:事業着手
平成30年度末:約1.33km供用開始

事業進捗率:65.0%(事業費ベース)
用地進捗率:73.9%(面積ベース)



標準断面図



3

3. 事業の効果・必要性

事業の効果

- ・道路整備による安全性向上及び市街地へのアクセス向上
- ・救急車両の搬送時間短縮
- ・水産物の輸送時間短縮

事業の必要性

・通勤・通学や買い物、救急搬送など、地域の生活に欠かせない道路であり、基幹産業である水産業の輸送経路でもあるため、交通の円滑化及び安全性向上が求められている。



完成工区(伊奈志多留工区):1.33km

- ・平成29年度に伊奈地区から志多留地区まで供用開始。
- ・完成した事により、2車線の幅員が確保され大型車との離合も可能となり、安全で快適な走行性が確保された。

改良前



改良後



4

3. 事業の効果・必要性(残工区)

事業の必要性(犬ヶ浦工区・越高工区)

・幅員の狭い区間が続き大型車との離合は困難な状況で、普通車の通行にも支障をきたしている。



5

4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)



「完了工期」

R1(前回) → R7(今回)

用地取得難航

・犬ヶ浦工区：L=1.01km

境界未確定の土地があるため、地籍調査事業を実施し境界確定を進めているが、期間を要している。また、境界確定後に用地を買収し、工事に着手する見込みである。

・越高工区：L=0.21km

海岸線を通る路線で現道背後は共有地が並び、共有名義者が非常に多く、権利者の同意が得られてない。

6

6. 対応方針(原案)

○整備計画の見直し

- ◆道路交通の円滑化及び安全性向上を図ることで、地域住民の生活利便性の向上、救急医療体制強化の支援、及び水産業の振興に寄与する。
- ◆事業進捗率は事業費ベースで約65%であり、用地進捗率は面積ベースで約74%となっている。
- ◆境界未確定地の境界確定や、地権者との交渉に期間を要するが、地元要望も強いことから、期間を延長し事業に取り組みたい。

